



「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会

## 遺伝性乳がん・卵巣がん

——アンジェリーナ・ジョリーの告白から学ぶべきこと——

**講師** 市川 喜仁 独立行政法人 国立病院機構・霞ヶ浦医療センター  
産婦人科医師（家族性腫瘍相談外来担当）

日時：2014年11月22日（土）18時～20時

会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地2-12-10  
築地MFビル26号館5階

参加費：会員700円 非会員1,200円 学生500円

参加申し込み：お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上  
「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで  
メールでお申込ください。pwesh@ellesnet.co.jp

2013年5月、アンジェリーナ・ジョリー（アンジー）は「私の医学的選択」と題した手記を新聞紙上に発表しました。その中で、①彼女の家系は遺伝性乳がん・卵巣がん（Hereditary Breast and Ovarian Cancer: HBOC）家系であること、②彼女自身、HBOCの原因遺伝子（BRCA1）変異を認めること、③乳がんになるリスクを下げるため、乳がんになっていない乳房から乳腺を摘出し、その後に乳房再建手術を行ったことを公表しました。世界的な反響を巻き起こしたこのニュースをきっかけに、わが国でも多くの人が遺伝性がんに関心を持つようになったのは記憶に新しいところです。彼女は卵巣がんのリスクも高いため、予防的卵巣摘出手術を近い将来受けるとも報じられています。

アンジーの公表以降、予防的手術への関心が高くなりましたが、彼女の手記からは他にも多くのことを学ぶことができます。遺伝性がんのリスクが高い人には、一般の人とは異なるがん予防対策が有効です。本勉強会では、HBOCに関する遺伝子検査や予防対策を紹介するとともに、「遺伝性がんに関する正確な情報と、それに基いた選択肢を知ることが重要」という、彼女が一番訴えたかったことについて解説します。さらに、HBOC診療の先進国であるアメリカの事情もお話します。HBOCに的を絞った情報発信を行っているNPO団体FORCE(Facing Our Risk of Cancer Empowered)のカンファレンスを例にして、日本での今後のHBOC診療について、ディスカッションしたいと思います。

### 【講師プロフィール】

独立行政法人 国立病院機構・霞ヶ浦医療センター 産婦人科医師（家族性腫瘍相談外来担当）  
筑波大学医学専門学群卒業、同大学大学院医学研究科博士課程修了。博士（医学）。

筑波大学附属病院、癌研究会附属病院等で臨床研修。

米国 Creighton 大学予防医学教室留学（ポスドク）、遺伝性（家族性）腫瘍の世界的権威である Henry Lynch 教授の下で、基礎研究ならびに大規模家系に対する遺伝子検査やその開示など、遺伝性（家族性）腫瘍の最先端医療を学ぶ。

筑波大学臨床医学系産婦人科講師、癌研究会附属病院婦人科/家族性腫瘍センター医員を経て、現職。